栩野正喜の勁草塾・・「手のつく事から」

昔、島根で「すぐやる課」が出来たという話題があった。

島根県は人口が少なく過疎化の進んだ地方であり
マンネリ化した地方行政だったそうだ。

そんな状況下、岩國哲人氏が出雲市長に当選して
行政の大改革に取り組んだのだ。

「鄙の論理」は細川氏と共著した本だが
日本の中央である東京都ではやれない事を
辺境の地で始める
という主旨だった。

「すぐやる課」は地元からの課題に対して
役人は関係者などを集めて議論し予算化してから実行
と時間軸が非常に長いことに着目して
まず、「現地現物」主義で事実を把握して
必要な対策を予備費で講じてから本予算で抜本的に行う
という流れを示したのだ。

地方の問題だから、複雑なことは殆どなくて
着手すれば即効果が見える
という事ばかりだったのだ。

つまり、「すぐやる課」は即応急処置をする事だった。

これは我々のビジネスでも同じだ。

今、話題のAIもChatGTPなどを利用して
質問を投げかけて回答を得るという事は多くの方が実行している。

また、画像処理なども普及しているという具合だ。

しかし、例えば、事務処理をAI化するとなると
途端に利用者が減少するという事実がある。

つまり、個人レベルでの利用は普及しているが、
ビジネスレベルでは、まだまだという状況。

２つのエクセルデータがあって、
それぞれは必要な項目を突き合わせながら
目的の報告用のエクセルを作り出す
このような処理をAIで実行させることができるのだ。

これにはAIの基礎を知る必要があり
一つのAIだけでは出来ないケースもあるとの事だ。

つまり、一般は複数のAIを使うとなると極端に減少するが
それぞれはサブスクで比較的ローコストで利用できるので
うちの会社でも４種類のAIを利用している。

これらの費用は全部で１万円未満なので
一人アシスタントを雇うことを思えば非常にローコスト。

まずは、無料版ばかりでなく有料にも手を伸ばしても
利用できればコスパは高い物である。

ぜひ、各種のサブスクを使いこなして頂きたいと思う。

【勁草塾のバックログはホームページにあります！】